

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 11 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401897		
法人名	(有) 風の森		
事業所名	グループホーム 風の森		
所在地	南島原市西有家町長野 762 番地		
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 10 日	評価結果市町受理日	平成 25 年 12 月 18 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・施設の雰囲気・地域とのつながり・職員・入居者様の笑顔・職員の勤務態度
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>施設長と職員が一丸となって、理念の実践、支援の質の向上に向き合っているホームである。勤務年数の長い職員が多く、様々な状況の利用者を支援された経験があることから安定感のある支援ができています。職員は利用者に節度を持って明るく、家族のように自然に接しており、ホーム内に笑顔と会話が溢れ、時には唄が飛び出すなど利用者は思い思いにリラックスして生活している。施設長は職員が働きやすい環境作りに努め、職員も互いに協力し合うことで気持ちよく仕事に励めており、また施設長による内部研修、かかりつけ医の協力体制や地域の方々に受け入れていただいていることなど多くの面で充実している。</p>

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との触れ合いを大切にして家庭的な環境の中で生活して頂けるよう目標を掲げている。職員全員が共通の思いで支援できるように努めている。	「統一したケア、切れ目のないケアによる安心を与える」を目標にいつでも利用者に声をかけて独りにせず、情報の共有で統一した支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りで施設の庭に神輿を入れ利用者様が賽銭を入れられ御参りさせて頂いている。また近所の方々より野菜や花を持って来て下さる等交流させて頂いている。	地域の方がふと立ち寄りたり、利用者の知人の訪問があったり、近隣の小学生や保育園児との交流があるなど、訪問しやすい雰囲気がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の施設見学の受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回施設での取り組み、実施内容などの報告を行い出席して下さった方々から意見を頂き今後のサービスの向上に活かしている。	年6回開催している。現在の会議の状況に満足せず、さらなる運営推進会議の活用を目指しており、その方法を模索している。	意見のいただける議題設定やメンバーの増員、またその時々でゲストの参加をお願いするなど活性化に繋がる方法の検討と実行を期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町担当者が公的援助を利用されている利用者を訪問する事がある。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放しており自由に入りが出来る様にしている。常に気配りを怠らない様心掛けている。またご近所の方へも見守りや連絡をして頂けるようお願いしている。	内部研修を行い、職員は拘束をしないケアを理解している。普段の生活の中でも拘束に当たらないかを振り返り、言葉による拘束にも注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者の身体の状態を常に観察し異変がないか確認している。言葉の暴力に対しても同様である。職員全員で注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し知識を得ている。必要な時は対応できる体制を取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は十分な説明を行い理解をされた上で同意を頂いて、また不明な点についても再度説明を行い納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族様とのコミュニケーションを大切にし、意見、要望、苦情は真摯に受け止め今後の施設運営に活かせるよう努めている。玄関に苦情箱を設置している。	利用者家族とは率直に話せる関係ができています。職員から問いかけて意見を引き出すことも心がけており、食が細くなった利用者への対応について意見を伺い対応した。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を行い職員と意見、提案を聞く場を設け運営に反映させている。	職員は年2回、施設長との面談を行い、個別に意見や要望を伝えている。そこで出された意見が反映されて職員の働きやすい職場となっている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員それぞれに合った勤務時間配分を心がけている。また年2回健康診断を実施し健康管理にお互い努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加を全職員へ呼び掛け参加し知識、技能の向上へとつなげている。また研修の資料は全職員が閲覧できる体制にしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域のグループホームケア研究会に加入しており、共通の問題、悩み等の意見交換を行い知識を高めサービスの質の向上に努めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所される前に利用者との会話を十分にもち不安や思いを把握しニーズに対し対応できる様に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用前に家族との会話を行い利用者、家族の思いを把握しサービスの提供に努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護保険、高齢者福祉、生活保護等を含め、必要時は関係機関へ相談、助言を得るよう努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食後の食器拭き、テーブル拭き等、共に助け合い家族同様に暮らせる様な環境を心がけている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で状態報告を行っている。状態変化だけではなく、お互いに不安なことの相談を行い、対応について意見を交換したり本人様を支えていくよう努めている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	馴染みのある場所へ外出したり、訪問して頂いたり、また墓参り等への外出に努めている。	お盆や正月の帰宅時にはアドバイスやサポートを伝えて家族の負担が軽減するよう支援している。友人等が訪問しやすい雰囲気があり、訪問客も多い。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の能力や出来る事を見極め互いに尊重し支えあえる関わりを大切に思い支援に努めている。洗濯物たたみ、新聞折、食器拭き等を皆で分担しながら行って頂いている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要と思われる場合、自宅訪問や電話での相談を行い、状況に応じて本人様了解のもと、介護支援専門員やサービス提供者への報告を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の意向を考え対応している。困難な場合は職員と家族が相談を行い対応策の検討をしている。	利用者との会話の時間を多く取り、把握に努めている。居室への持ち込みについて利用者本人も意識していなかった思いに気づいて家族につなぎ、喜ばれた。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に本人様及び御家族様の方に今までの生活されて来られた事、好まれている事を尋ね馴染みの深い品物等を持って来てもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の毎日の生活状況を記録に残している。心身の状態の変化を見逃さず本人様のやる気を起こさせるよう支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度会議を実施しており入居者様の今の状態を報告している。ケアのあり方等、御家族の方々に助言を頂きながら全職員の意見を交換しあい介護計画を作成している。	担当職員がプラン案を上げ、全職員で検討し正式なプランを作成している。医師、看護師に相談したり、遠方の家族には手紙や電話でご意見を伺いプランに生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェック表を作成し毎日の結果を記録に残している。その中で気づきがあれば日々の話し合い、月1回の会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時や退院時、また外出や外泊される時等本人様や御家族様の意向に添える様に柔軟な体制を取れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティア、地域の小学校との触れ合いを大切にしている。消防所の方々、地域の消防団の方々、地域の方々との参加も含め消防訓練等の安全面も心がけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様や本人様の希望される病院との連携を図っており往診の際気づきや変化があれば御家族様に報告行うよう配慮している。	かかりつけ医と良好な関係を築き、速やかに対応していただけている。必要に応じて電話での相談、他医療機関への紹介などのサポートを受けている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化が見られた際はホーム内の看護師に報告、相談行っている。病院との医療連携も図っており24時間体制で皆様の健康に留意している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてもホームに帰所される様体制を整えている。病院と連携をしながら安心して入居者様を受け入れる体制作りを行っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を取り決め同意を得ている。施設、家族、医療機関の方向性を共有している。	看取りの経験があり、かかりつけ医と相談の上、可能であれば対応している。職員は利用者への思いが深く、希望があれば重度化や看取りに向き合いたいとしている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルがあり、またヒヤリハットの時点で情報交換を行い事故を未然に防ぐ努力を行っている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年医2回消防署の協力のもと、スタッフ全員参加により訓練を行っている。また地域の方にも協力をお願いし緊急時の連絡も取れるようになっている。	消防署立ち会いのもと火災の夜間想定や地震想定で避難訓練を実施しており、月1回、建物廻りや消火器など点検しチェック表に記載している。	火災時について夜間想定のみ避難訓練が行われているが、違う状況下での行動の確認のため昼間想定での避難訓練の実施が望まれる。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬う気持ちを常に忘れず接している。個人記録や情報に関しても安易に他人の目に触れないよう努めている。	年1回内部研修を行っており、言葉遣いにも気を配っている。入浴やトイレ支援で不快な思いをさせないよう利用者お一人ひとりの気持ちを敏感に察している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を十分に行いスタッフが本人様の思いを把握し自己決定出来るような声かけを行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の事を考えその方にあった支援を行っている。買い物や外出も支援できるような体制もとっている。	
39		○身だしなみやおしよれの支援 その人らしい身だしなみやおしよれができるように支援している	入浴の際などは本人様の着たい洋服などを尋ねながら希望の服を着て頂いている・	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人に合った食事を提供している。食事前の台拭きや食器拭き等もお手伝いして頂いている。	献立担当の職員数名が利用者の希望も聞きながら、バラエティーに富んだメニューを提供しており、職員も一緒に和やかに食事をしている。利用者は皮むき等出来る範囲で手伝いをしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事摂取量、水分量をチェックし記録に残している。少ない時は補食で提供したり、高カロリー飲料で栄養を補給している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けを行い行ってもらっている。個人によっては介助を行っている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表をみながら声掛け行いトイレでの排泄が出来る様に支援している。失敗された時も他人に気づかれないう心にかけている。	利用者の希望に沿いながら、利用者の負担にならない形で自立に向けて支援している。タイミングよく声をかけて利用者が失敗されないよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便をチェックし運動を取り入れながら主治医と相談しリズムに排便が出来る様取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者様の一人一人の入浴スタイルを大切にしながら気持ちよく入って頂けるよう支援している。	週3回、入る順番や入浴日、入浴手順など利用者の希望に沿った支援をして、おゆず湯や菖蒲湯、米ぬかなどで季節や心地よさを感じていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調に応じて安眠や休息して頂けるよう支援している。不眠者に対しては主治医との連絡、相談を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院への受診、往診時は指導を受けた内容や処方内容もしっかり記録を行い職員全員が内容を把握出来る様にし毎食後の服薬もチェックしている。		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	出来る事を出来る範囲で手伝って頂き、お礼、感謝の言葉をかけている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	ドライブや買い物に出掛けたり花見に行き、季節を感じてもらい楽しんで頂いている。	行事としての外出の他、利用者の状況を考慮しながら、職員の発案でドライブや買い物の同行など行われることがあり、また個別対応についても意欲を持っている。利用者は普段、散歩や日向ぼっこで外気浴をされている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人様の必要な物の購入の訴えがあった時、すぐ使用できるよう支援しています。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	本人様の希望時に電話の仲介や支援を行っている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	本人様の馴染みのある食器等を使用し心地良く食事して頂く様工夫している。	玄関に花や、木の実などを飾り季節が感じられる。利用者の起床前に必ず空気を入れ替え、また清掃に力をいれて清潔感のある共用空間としている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファやテレビ等を置き入居者様同士、またはスタッフも交えて楽しく過ごして頂ける様工夫している。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの家具や仏壇などを持ち込んだり頂き、その人らしい空間を作り生活できるよう支援している。	利用者はテレビ、筆筒など思い思いのものを持ち込み自分らしい落ち着いた居室とされている。冬は乾燥対策として、居室に濡れタオルをかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーとなっておりいろんな所に手摺が取り付けられ、廊下には長いすが置いてあります。一人一人にあった支援を行い不安を取り除けるよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方と共々に生活していくという地域社会との繋がりを持ちながら今まで生活して来られた家庭的な環境のもと穏やかに暮らして頂く事を介護理念としている。全職員この理念を共有し、日々の介護に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の秋祭りの際神輿に立ち寄って頂き、お参りさせて頂いたり、神主さんよりお払いをして頂いたりしている。また地域のご婦人方とお饅頭を作って食べたり、施設周辺の農家の方より野菜をたくさん頂いたり、良いお付き合いをさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校生の福祉体験の場所として利用して頂いている。また地域の方々の施設見学の受け入れや、介護に関する相談等にも応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内での取り組み状況・ケアの内容等報告し、それに対する評価や意見を頂き、今後のサービスこうじょうに活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護等、公的扶助を受けられている入居者様の担当者の方へ必要な情報を提供したり、助言を頂いたり協力体制が取れている。		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員による勉強会を行い、身体拘束をしないケアに努めている。職員による見守りを重視することにより、入居者様は自由に行動できる体制を取っている。又玄関や居室窓等、自由に入出入りや開閉出来る様になっている</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員で虐待防止の勉強会を行っている。入居者様の日頃の様子、また身体状態を十分把握し様子の違い、変化を見落とさない様、心がけている。常日頃より、虐待する事のない様周知徹底行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>全体会議にて、全職員が制度について理解出来る様、勉強会を設けている。対象利用者が制度を活用出来る様関係者との話し合いを持てる体制を取っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前や解約前には、利用者や御家族様へ同意を頂いており、十分な説明を行った上で、疑問や不安がある場合は相談下さる様申し出ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご利用者様、御家族様が常に話しやすいよう、話しやすい環境を心がけている。利用者様に対しては、会話の中から要望が聞けるよう常に傾聴に努めている。また御家族様に対しては面会時または、電話等にて状況報告を行い要望など聞ける機会を設けている。また苦情箱を設置し、無記名で投函して頂ける様にしている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回の全体会議、意見が出やすいように少人数化しA棟、B棟職員をわけ意見、要望、提案など出し合っている。また普段は回覧ノートや日勤帯で疑問が生じた場合、ノート等を通じ皆に回答を求め反映させている。また管理者が意見に対し十分話を聞き、代表者へ報告、すぐに反映する事柄であればその都度申し送り反映させている。</p>		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>半年に1度職員全員、施設の方針である「統一したケア、切れ目のないケアによる安心感を提案する」に向かい、それにつながるよう個別で目標を立てている。また月に1度全体会議にての勉強会、外部研修なども各自が向上心を持って働けるよう、目標達成できるよう努めている。また半月に1度代表者と管理者で面談を行うことで環境、条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は個人の目標設定や半年に1度の面談などにより力量などの把握に努めている。月に1度勉強会を実施したり、外部研修に参加できない職員に関しては回覧や全体会議での発表や参加した職員と共にその研修内容の振り返りを行う事で情報共有に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>外部研修の主催者が色々おられ、色々な外部研修に参加したり、交流会や親睦会に参加し情報交換を行っている。そこで得た情報交換をもとにし、サービス提供の質の向上に努めている。グループホームケア研究会にも加入している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人様と必ず面談を行っている。新しい環境、慣れない環境へ入ってこられるので、まずは職員の表情、態度、雰囲気にかがけている。十分に話を聞いたり、生活の中での表情や会話の中から要望が汲み取れるよう努め、身体的状態、精神的状態を把握している。それらを考慮し、職員全体で話し合いながら環境、雰囲気作りに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>御家族様と面談を行っている。「暮らしに関して」「介護に関して」「医療に関して」など利用者様への思いや意向と、御家族様の思いを受け止める事が出来る様努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>介護保険、高齢者福祉、生活保護等を含め必要時は関係機関へ相談を行い助言を得るよう努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	精神的状態や身体的状態を勘定し、皆様と同じ空間で過ごす事で良い関係作りに努めている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて状態報告及び、状況、経過等報告行っている。また状態変化だけでなく、お互いに不安な事の相談を行い対応について意見交換をし同じ思いで対応が出来る様努めている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出が困難な方は訪問していただいたり、御家族様協力のもと墓参り等支援に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人の能力や身体状態、性格等を見極め互いに尊重し、支えあえる関わりを大切にしている。日頃皆様に洗濯物たたみや新聞折を分担し行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要と思われている場合、自宅訪問や電話での相談等行い、状況に応じて本人様の了解のもと介護支援専門員やサービス提供者への報告を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いや意向を第1に考え、また御家族様の意向もふまえた上で、3ヶ月に1回ケアマネジメントを行っている。必要な時は御家族様にも協力をお願いしている。困難な方への対応は御家族様へ相談行い、その方らしい支援が出来る様努めている。		

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家庭環境を把握し、その方の習慣等を大切に行っている。また馴染みの物や大切にしてきたものを持ち込んで頂く様お願いしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より状態等の変化を見分けるよう注意し一人一人1日の過ごし方、くつろぎ方を把握する事に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際は、本人様及び御家族様の意向に合ったケアが出来る様職員全員で意見交換を行い進めている。また一人一人に担当職員を決め十分にその方の状態把握に努めている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別ファイルへ1日の状態を観察記録を行い、全職員情報を共有し検討が必要な場合はケア会議時対応やケアの方向性など見直しを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊、入院や退院等本人様や御家族様の意向に柔軟な体制を取っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議委員の中に地域の方消防団所属の方に協力を頂き、地元小学校やボランティア等の協力も受けながら支援を行っている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や御家族様が希望される病院を受診して頂き、日々の状態や緊急時の状態等の報告を行っている。		
31	○看護職員との協働			

		<p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>主治医と看護師とのやりとりも日頃から相談できる体制が取れており日々の健康管理や状態変化を把握している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>個人情報に関する同意を得、家族や施設、医療関係を共有し早期退院の支援に結び付けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期についての指針を作成し、それに基づいて施設、家族、医療機関の方向性を共有し、重度化した場合についても本人及び家族の意向を尊重した上で医療機関との連携について方針を共有し対応している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日頃より医師や看護師の助言を頂き対応出来る様に努めている。緊急時対応マニュアルを作成し職員に周知し対応している。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼間、夜間、地震、火災を想定した避難訓練、消防訓練を地域の方や消防団の方を交えて年2回行っている。</p>		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ親しんだ中でも礼儀を忘れる事無く対応し、常に言葉掛けには細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の気持ちを聞き入れながら表情や反応を注意深く観察し、入居者様のペースにあわせて本人様が思いを伝える事が出来る様に心がけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様と話し合い、その都度希望を聞き入れ対応し、食事の時間や入浴の時間等本人様のその日の気分や体調に合わせ選択出来る様に心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、ご本人様の希望に応じた髪形をされている。洋服の選択は出来る限りご本人様にお任せしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味見、かたづけ等出来る事は職員と一緒にを行い出来た時の喜びを分かち合い、一緒に食事を楽しむなど食事の時間を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の体調に合わせて普通食、キザミ食、おかゆなどで対応している。なお美味しく食べて頂く様に盛り付けや量も調節し食事摂取量や水分量を記録し把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人一人の状態に合わせて食後の口腔ケアの声掛け、見守り及び介助を行っている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し長時間訴えない時は声掛け行い誘導行っている。本人様の能力が低下しない様に夜間帯も声掛け行い排泄して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事に注意し乳製品や野菜を多く取り入れるように心掛けている。排便の記録も毎日行っており一人一人の状態も把握出来ており必要に応じて主治医への相談も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の体調や気分に合わせ入浴を安心して楽しんで頂ける様一人一人のペースに合わせて見守り介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の自室が個別にありその日の体調や気分に合わせ自室かフロアか自由に選択出来る様に支援している。自室には冷暖房も完備しており安心して気持ちよく休息、睡眠して頂ける様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を薬管理に記録し内容を把握し、常に確認出来る様になっている。なお毎食後の服薬の有無のチェックを行い個人個人の服薬能力に応じた支援をおこなっている。		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>テーブル拭きや洗濯物をたたんで頂いたり、一人一人の能力に合わせて皆様と一緒にやる事により会話も弾み達成感も感じて頂き、気分良く過ごして頂ける様努めている。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人一人のその日の気分を配慮して買い物や散歩、ドライブ、花見等希望を聞き支援している。</p>		
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金管理は本人様の出来る範囲で一人一人に合った支援を行っている。金銭管理が困難な方は施設でお小遣い帳、領収書を管理し御家族様に確認して頂いている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>入居者様の希望に常に対応できるよう準備し手紙代筆等行い、やり取りができる様支援している。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共同空間も清潔、美化に努め、季節の花や植物を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>施設内だけでなく外庭にもテーブル、椅子を置き自由に過ごせる居場所を複数用意している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様の写真を居室に飾ったり、使い慣れた馴染みの物を取り入れ落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー、各所に手すり、スプリンクラーの設置で安全な環境作りを行っている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない